

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和5年度病害虫発生予報第6号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 総合研究部 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	---

病害虫発生予報第6号 (予報期間：9月上旬～9月下旬)

予報内容

大 豆

葉焼病の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散する。発病を認めたら直ちに防除する。

フタスジヒメハムシの発生は**やや多**と予想される。汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。発生初期に防除を実施する。また、抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果 樹

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため同一系統の薬剤は連用しない。また、発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連

用しない。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止を徹底する。

— 気 象 予 報 —

1 か月予報 (令和5年8月31日付け 新潟地方气象台)

予報期間 9月2日～10月1日

[確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	10%	高い	80%
降 水 量	少ない	30%	平年並	40%	多い	30%
日照時間	少ない	30%	平年並	40%	多い	30%

[概要]

・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

・9月2日(土)～9月8日(金)
天気は数日の周期で変わるでしょう。

・9月9日(土)～9月15日(金)
天気は数日の周期で変わるでしょう。

・9月16日(土)～9月29日(金)
天気は数日の周期で変わるでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 大豆の病害虫

葉焼病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 病原菌は風雨によって飛散する。発病が認められたら、直ちに防除を行う。

ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

フタスジヒメハムシ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 子実肥大期の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期に防除を実施する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2 果樹の病害虫

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+)

- 防除上の注意事項
- (3) 降水量はほぼ平年並（±）
 - (1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生はやや少（－）
(2) 気温は高い（＋）
(3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項 (1) 予防防除を徹底する。

リンゴ褐斑病

- 発生時期 連続発生
発生量 やや少
予報の根拠 (1) 現在の発生は並（±）
(2) 気温は高い（－）
(3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項 (1) 予防防除を徹底する。

カキ炭疽病

- 発生時期 連続発生
発生量 並
予報の根拠 (1) 現在の発生は並（±）
(2) 気温は高い（－）
(3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項 (1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類

- 発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 予察灯への誘殺数は多（＋）
(2) 気温は高い（＋）
- 防除上の注意事項 (1) 山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類

- 発生時期 連続発生
発生量 多
予報の根拠 (1) 現在の発生は多（＋）
(2) 気温は高い（＋）
(3) 降水量はほぼ平年並（±）
- 防除上の注意事項 (1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
(2) 発生源となる下草を刈りとった後に防除する。

3 野菜・花きの病害虫

軟腐病

- 発生時期 連続発生

発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。
ネギ黒斑病	
発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。
ネギハモグリバエ	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。
アザミウマ類	
発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
アブラムシ類	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
ハスモンヨトウ	
発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナガ (アブラナ科: ダイコン、ブロッコリーなど)

発生時期	増加期は9月上旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。